

No. 58

編集人 葛西よう子

毒物

3 和

熱海にて

荻田玲子

もうお、分前さうだが、日教組の婦人部は、女子児童、生徒にむけて「女子教育もんだい」という分野をもうけてゐる。これは女子に一人の「個」として生きていける（つまり男に扶養されなくても）基礎をつける「男勸権」を持つ事の重要さを教える。あわせて「精神の自立」を教えてソコとするもので「女は働かなくてよい。他にすることがあるではないか」という社会通念のゆゑ。ほんとうにそれでいいのか？と問いかけ、「人とは何か」「愛とは」「家庭とは」「性とは」——そしてそれらと「働いて生きる」ということのつばかりを追求させてソコへ人間教育である。今夏、熱海で、全国から集まる長大会があり出席したので、内容をも紹介したい。まあ、もうさあようこそさんの講義「おんなたちのゆくえ」から——

「事達の思秋期」といわれてゐる事態をよみみると

これは前時代の女達の理想の状況なのに、こうなつたと考えませんか。ババめさ、電化された家、大家族……これは家族制度の下にある姑小姑にいじめぬかれ、朝は暗い内から起すておまどに火をつけ、夜はぐに暮れた嫁族にとつては、望みが叶うはずもない理想の世界ではあつたか。産業の発達でそれが叶つたのに、えんとは思秋期などという「精神的難民」の状況になり、「タンタロスのおろし」にさらされてゐるのではないか。一昔前日本の女達が生き方のモデルとしたのは「西洋婦人」と「社会主義」であつた。しかしその西洋婦人も生きがいのない状態だというし、社会主義は言論思想の自由が限られてゐることがわかつた。今何をモデルに生きていつたらいいのだろう。これからの女達の行方は、もう外に求めるのではなく、自分が作り出してゆくものではないか。

おは、自分の生き方の一つとして、ふまとの小諸に「正史をかうて家」をつくら、「つくた」といふも、縁者カゼロだったのに、見ず知らずの女達が、まるで

「女子は人間の實現でもあるものに助けを求め、
ために完成されたのだ」

過去、男性優位社会の中で、バブルに上りて来た女性たちは
今は連帯して戦うことが出来るのではないのか

核時代、精神的末世といわれる時代であろうとも、女性
たちは常に終末をプロローグに受ける力を持てるのだ

度にあつて、正史をからす

心はちやぐ、自立を生まざる

そのうち言葉

講演はしめくられました



刈田さんは八月二十七日に熱海で行われた
オセロ日教組全国女子教育問題研究集会

に出席し、北海道から沖縄迄、自費参加し、また

大分間三つに亘り、主に女教師（と）男教師もチ
ラホ（と）達と共に、共感のあつたやりを体験しました

この会の目的は、在野的にその状況をおさる、将来展望を持
て現状を分析し、対応を考えこゆく、知恵と力を得る

学習の場です。この講演の他、「母と卒業生の就労状況
シンポジウム」「家庭科の男女共修を進めるために」などが

ありました



昭和五十九年度
ほがすき婦人問題会議 報告

葛西 よう子



八月二十七日、婦人の地位の向上をはかるために、を主題に
恒例の「ほがすき婦人問題会議」が市民会館大ホールで
開かれまして、午前中は全体会議、午後からは、県婦人
問題懇話会座長である、赤星県立短大教授、県婦連
会長の小池スイさん、そして高田知事と本島市長の
意見発表があり、会場が熱心な、そしてアツク、質疑
が出、和気あいあいとした活発な会となりました。この日
を葛西が担当しました。以後は四人のパネラーの意見をまと
めたものです。

小池さん、過去九年間、国際婦人年開始と同時に発展
平等平和をテーマとして県立各地で学習会を開きつづけて
来たが、本島の婦人の認識が成り立っているか、県下の婦
人の十割が何卒かの社会参加をしているか、が、正直に自分
に参加しようか、個人で成る事もある、しかし行政力
をかりる必要がある、学習会の中から出て来た要望と
政策決定の場には女性もぜひ出てほしい、審議会委員

の三十%をせめて女性にもほしい、すべの公民館に保育所
を、ホムセンの調査をして対策を急ごほしい、保健所の
ほいほいがある、病人が出ると婦人へのしわ寄せが大きい
で、ヘルパーの設置を、国際的視野が必要、今、婦人海
外派遣を、女性が働きやすい、社会参加しやすい状況を作る
のは行政の役目である

赤星先生、既婚女性の職場進出が増加している、今、育児は
社会全体の共同責任である、との認識の下に、さめさめい配
慮が必要である、老人が病人だった時の問題も同様である
女性自身は、パターンに固定して考えるのは止めた、結婚
後の中心は夫と子供、自分を中心とするという人は十%
以下、選択の多様性が望まれる、家庭の中には社会に求め
られぬ仕事がある、子供を含めた家族全体で分担したい、一
人が犠牲を払うのは健全な家庭ではない

市長、男が病の中、自分の視野を失いがちである、女性社会
をどうと見つめて、社会の健全より正義を支えているのは女
性、就職と再婚が自由に出来る行政をおし進めたい、
女性が持つ男性には、感覚、思考を社会生活の全領域
に反映させる事が必要である、その部課長を何時、市

に作るか考える、市職員のその採用は積極的に切
かしたい

知事、今の世は男中心、男が働きやすい条件がそろっている
女性外に出やすい条件を作る、というのは社会のゆとりである
事はわかって、しかし家庭における女性の役割は大切で
ある、主人を啓蒙するのは女性の活躍の場である

行政も女性の役付への登用、能力による採用を努力したい
戦争がある男が強くなる、女性平和を守る努力を、ほしい
老人対策、今年中に具体案を出したい、保健婦、家庭奉
仕員の増員、生涯教育センターの設置、婦人対策室の
強化にとり組む、今年の採用は県はAクラス、Bクラスの
区別を廃止した、上級職の女性は倍、採用する予定である
フロアから出た質問、意見としては……

。まず、市長は、総務で男性は仕事の手を、女性を愛
護、だけを考える、と発言したが、今はちがう、どう事
実を知りたい

。教育委員会に母親代表を三名は入れてほしい
。各種審議会にぜひ婦人を入れたい、十歳からの児童
。家庭婦人の健康診査を義務付けてほしい

○夜間保育所の増設 夜間保育所に預けなくてはならぬ職業の場がほしい

○市果職員は女性を公平に実力で評価してほしい 女性管理職の登用がほしい

最後に小池さんの発言をみんなで味わってほしいと思う

〇人が有るより一語に添って歩進もう 前進する中で問題が見えて来たら手を組んで解決して行こう

森川 ニニ美さん

退院しましたよ！



森川さんより編集人へ来た御手紙より。――

本十月一日退院となりました。入院中から三月あまりが過ぎみれば早いものです。急げばせがいつてしまつて ああ会社に行きたくなかったと思つてます。十月中頃から出社予定ですがまだ足を引くままです。(後遺症) 昨までは元通りだそうですが) 杖をつかひといけないうしので外を歩くにはやや抵抗があります。……今度アリの救済物資を送るためのバザーをしようと考えています。みんなアリの力には何かしたいけどどうしたらいいかわからないうつと思つて 誰れでも気軽に参加出来る

るよう 大きなおかげだと思つてます。自己満足にすぎず、力にもなる様は計画にはしたくないので、今、愚直に考えている所です。……早くみんなに逢いたいなあ

いぬの森



03-207-3692

田代 千鶴 母 10時 (無休)

ばさんやマンの会へ「東京強姦被害センター」のチラシが送られて来ました。一九八三年九月一日開設された女性の組織で「RCCニース」を発行してつづけています。

そのチラシから引用し、紹介したいと思つます。

「被害は強姦被害をよほど定義します。一強姦は女性に対する支配、征服、所有、性行為を行う形をとる暴力です。強姦は女性だけの事ではない、その性行為です。

昨月開設以来 相談の長電話総数三八一件、ねんぐら

三三六件、被害者たちの相談二五件、種々の仕事につて

もや連、二人数名(弁護士、医師を含む、セクセラーの専攻

家も)がトレーニングを受けて後、応対している。その他

傷害、調査も行っている。スエーカー(三枚育月)丁シヤ(千

七百円)も資金源にうつつとるの事です。今、募集集中!

東京都江東区江東郵便局書箱七七号、が連絡先です。